

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	笑憩の里
(ユニット名)	憩いの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市
記入者名 (管理者)	野元政子
記入日	平成 20 年 3 月 17 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>○基本理念＝「私達は、笑顔の里利用者のご家族の尊厳と敬意を最大限尊重し、ご本人の持てる力、ご家族の力、地域の力に働きかけ、一緒に考え利用者が一日一日を生き生きと過して頂けるよう笑顔で寄り添っていきます。(いっしょに たのしく ゆったりと)グループホームのケアのあり方、役割や課題を地域へ発信し地域で支えるまち作りに貢献していきます。」</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>○ミーティング、日々の介護サービスの場面において、パーソンセンタードケア、地域密着型サービスについて話し、理念を共有している。</p> <p>○管理者と職員は協力して、利用者の心地よい体験の実現や自立支援のケアに日々取り組んでいる。</p> <p>○新規採用者も、運営理念について理念を共有し実現できるようホーム内に掲示しており 説明している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>○基本理念を掲示して、利用者やご家族来訪時、入居契約時、地域の人々へ理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>○利用者も運営推進会議へ出席いただき、地域の中暮らししていること、理念の実践を報告している。</p> <p>○小中学生の体験学習を受け入れており、入居者との協同生活介護の実践・落ち着いた暮らしについてお話ししている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>○日々の地域散歩の際には、利用者と職員が地域の方々との気さくに挨拶を交わし自然な関わりがある。</p> <p>○お花見・夏祭り・敬老会等行事の声かけをして、地域の方々へ気楽に参加して頂いたり、ボランティアとの交流が楽しみの一つになっている。</p> <p>○地域の方より、花や野菜の頂き物がある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>○地域の小・中学校から福祉体験学習を受け入れており、子供たちとの交流が利用者の楽しみとなっている。</p> <p>○職員は利用者と共に地域行事(運動会見学)やバザーへ出掛けて行き、地元の方々との交流に努めている。</p> <p>○運営推進会議で地域の行事を教えていただき、手作りの旗で駅伝の応援に参加できた。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○入居相談・電話相談・突然の見学来訪者に対しても、職員は認知症介護に関する相談等を受け入れる体制があり、運営推進会議の機会を通して地域へ発信している。 ○相談のケースについては、職員間で周知している。 ○介護実務者研修実習生等を、積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○運営者、管理者、職員は全員で自己評価に取り組んでいる ○ご家族からの助言や感想にもっと耳を傾け実行していきたい。 ○管理者は、介護相談員・実習生・ご家族からの助言や感想要望等を全職員へ周知してサービスの向上に前向きに取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○奇数月の第3土曜日14:00～1時間に設定し、運営推進会議の掲示メンバーへ声かけして参加をお願いしている。 ○会を重ねるごとに質問、意見、要望がだされ、有意義な運営推進会議になっている。 ○活動報告にとどまらず、興味の持てるテーマを設け、より多くのメンバーが参加頂けるよう工夫している。	○	庭散歩の途中で腰をおろす安全な椅子の設置。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○包括支援センターへ運営推進会議の報告を行っている。 ○キャラバン・メイト養成研修終了者は、包括支援センター等と協力し認知症サポーター講座の準備がある。 ○介護相談員を受入れ、利用者の希望を引き出している。 ○市の担当者が変わっても利用者への支援が継続できるよう相談など積極的連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○玄関と事務所に「グループホーム倫理綱領」と「ご入居者のご家族の権利」「成年後見制度、地域福祉権利擁護事業とは」を掲示し利用契約時に説明、職員の意識付けに活用している ○職員は、誰でも何時でも相談苦情の窓口と周知している。 ○関連病院の精神保健福祉士との連携がとりやすく、必要な人に支援できる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止、身体拘束廃止推進研修会や認知症介護研修に参加し、高齢者介護について学んでいる。 ○更衣や入浴時に、身体観察を行い異常の早期発見に努めており、ご家族への細やかな報告を心がけ関係づくりを大切にしている。 ○日常の介護目線を大切に言葉遣いにも注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>○契約以前に、利用予定者・ご家族のホーム見学をして頂き、介護不安やご希望を伺い丁寧な説明を行っている。</p> <p>○見学時には職員紹介や入居者との交流もして頂く。</p> <p>○契約時は書類に基づき、事業所で出来る事出来ないことを明確に説明している。</p> <p>○退居となる場合も、主治医を交えよく話し合いご本人にとって良い方法探りご家族の納得のいく支援に取り組んでいる。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>○利用者に運営推進会議やカンファレンスにへ出席いただき、意見を述べる機会を設けている。</p> <p>○ご家族の意見を利用者の視点でとらえ、職員と話し合っている</p> <p>○介護相談員への意見、相談を真摯に受け対応している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>○「笑憩の里たより」・運営推進会議や議事録で利用者の暮らしぶり・職員の移動等の報告をしている。</p> <p>○健康状態は、こまめにご家族へ報告し連携に努めている。</p> <p>○年1回は、健康診断の報告をしている。</p> <p>○小口預かり金について、年2回出納帳のコピーと領収書を送り、残高確認をしてもらい、確認書を受け取っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>○管理者や職員は、ご家族の率直なご意見を聞く努力や場面づくりをしている。</p> <p>○ご家族の意見や相談は、ホームを育てる貴重なものと有難く伺い、ミニカンファ・職員会議などで報告して運営に反映させている。</p> <p>○行事活動への参加を「笑憩の里便り」や電話などで呼びかけ、ご家族来訪時に意見や感想を伺い運営に反映させている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>○運営者は現場への来訪をもっと努力して、入居者・職員への声掛けや把握に努めて行きたい。</p> <p>○月1回の職員会議は運営者、全職員の参加を前提に行っており、運営に関する職員の自由な意見が反映されている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>○利用者の個々の生活を支えるため職員の急な休みなど、柔軟な体制が取れるようローテーションを組んでいる。</p> <p>○利用者との関係が出来ている職員が夜勤をしている。</p> <p>○ケアマネジャー(准看護師)、管理者(看護師)は、介護職員の相談にいつでも対応できるよう心がけている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>○職員の離職、新規採用の時は、利用者との人間関係や業務がスムーズに行えるよう配慮し業務を補ったり、職員間の協力体制がある。</p> <p>○勤務交代は、利用者の状況と職員のバランスを考えて、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。</p>	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>○新規採用時にグループホームの取り組みを説明し、現場では機会をとらえ指導や助言を行い、その効果を個人と確認しあっている。</p> <p>○職員は担当制で勉強会を受け持ち、内部研修の機会を設けている。</p> <p>○外部研修の案内を職員に周知し、研修に進んで「参加している」。</p>	○
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>○県グループホーム連絡協議会へ加入しており、支部の研修会へ職員は参加している。</p> <p>○毎年近隣のグループホームへ夏祭りの招待をしている。又他グループホームのバザーへ出掛けしている。</p> <p>○実務者研修実習生の感想や意見を職員へ報告して、日々のケアに生かしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>○管理者は個々の職員へ声かけを行い相談しやすい雰囲気を作ストレスや悩みを把握するよう努め、個別面談や会議等で検討するなど配慮している。</p> <p>○運営者の個人面談が徹底できるよう努めたい。</p> <p>○勤務時間に退社できるよう職員間で協力している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>○職員は元気で仲が良く協力体制がある。</p> <p>○管理者は、運営者へ職員の日頃の努力や具体的な実績を報告している。</p> <p>○運営者は、職員の資格取得や日常の職務に評価を行っているがまだ努力していきたい。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>○相談の時点で本人やご家族と直接会う機会を作っている。</p> <p>○入居に当たっての要望、不安の訴えはできるだけ早く把握し解決するよう努力している。</p> <p>○訴えのない方も、表情や態度から、グループホームで快適に過せるために何が必要かを探るようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>○電話相談、見学来訪には、ご家族の求めている事、不安な事、介護上の困り事等についてゆっくりとお話を聞くよう努めている。</p> <p>○入居を考えていらっしゃる場合は、ご家族とご本人の見学をお願いして一緒に考えられるようにしている。</p> <p>○職員は、相談援助技術を学び向上させ、家族にとって頼りになる存在を目指したい。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○電話相談は、切羽詰まった状況のことが多い。自施設満床の場合は他のグループホームを紹介をしている。 ○ご本人ご家族来訪時は、お話を伺い職員の意見や感想も見極めの参考にしている。 ○見学来訪時の状況により、医師である施設長との面談を設定し助言を得ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○入居後不安が強い時、ご家族と連携し電話でご家族と話していただいたり、職員の声かけを多くする、職員の近くで過ごすなど不安の軽減に努め場の雰囲気馴染んでいけるよう配慮している。他の利用者にも働きかけ協力をお願いしている。 ○職員は入居後3ヶ月間は様々な状況がある事を理解し、環境に慣れていけるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○園芸やおはぎ作り、味付けなど先輩である入居者へ相談したり、教えてもらう場面がある。 ○利用者と一緒に過しながら、喜怒哀楽を共にする場面が多く職員は利用者から元気を頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○ご家族は利用者の生活を支える大切なメンバーという認識を職員はもっている。面会時間を設定せず来訪頂いている。 ○ご家族を笑顔で迎え、言葉で表現しなくても、利用者の身体で感じている安心を代弁し一緒に支えていく関係を大切にしている。 ○行事や運営推進会議等へのご家族の参加をお願いし、協力頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○利用者は、家族の事をいつも一番に考えておられることを、機会を通して(絆・役割)お話している。 ○ご家族の来訪できる曜日などを伺い、利用者との話題や安心に繋げている。 ○電話で自由にお話ができる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○ご家族や兄弟の面会が多い。 ○利用者の希望で離れて暮らしているご兄弟へ電話をされる。 ○ご家族の支援により、月命日にお墓参りに行かれる。 ○散歩の時、地域の方もよく挨拶や声を掛けてくださる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○利用者間の口論があっても、職員がそれぞれに個別に対応し、利用者の訴えをゆっくり伺い孤立しないようにしている。 ○利用者同士は、支えあえる関係にあり近位見守りしている。 ○利用者の不安な気持ち、混乱する状況の背景を、日常職員間で話し理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○入院や他の施設に移られた後も、見舞いに行ったりしている。 ○今でも亡くなられたご家族がらの贈り物があり、娘さんは夏祭りに友人と参加頂いたり関係が続いている。 ○夏祭りの案内をお送りして、来訪の機会を作っていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○利用者の思いや暮らし方についてケースカンファで話し合ったり、ご本人に参加して頂き本人の意向を把握するように努めている。 ○ご自分の意見や意向を表現できない方についても、利用者の立場や気持ちになって話し合っている。 ○将来にむけてもご家族と相談している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ご家族や利用者本人に何うように、職員は日頃本人が充実した生活を送られた頃の出来事などを話題にして話かけ、利用者の理解に努めている。 ○家計図を作成し、職員間で利用者の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○毎日の記録や引継ぎから、健康の観察、心身の状態、活動状況、生活のリズムの役割等総合的に把握している。 ○個別のカンファレンスや現状を出し合い記録し全員が把握するように努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○職員は利用者の視点に立って考えたり、抱えている課題について気づきなどを出し合い記録し介護計画を作成している。 ○ご家族の意向も伺って反映させている。 ○職員会議の日は、対応困難なケース等のケースカンファを行い介護職員全員の意見やアイデアを反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○状態変化時はその都度ミニカンファなど開き、現状に即した新たな計画を作成し対応している。 ○医師の意見、ご家族への説明報告や意向を伺い計画を作成している。	○	○状態変化時に、話し合った方向性現状に即した新たな計画を作成していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○日々の引継ぎで個別の状態把握に努め、変化があれば話し合い記録して情報を共有し、実践や計画に生かしている。 ○個人の支援記録の月間記録があり、状態により個別の排泄、食事記録等を活用し実践に生かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○関連病院やデイサービスが近くにあり必要に応じて柔軟な対応(マッサージや交流、外出援助など)をしている。 ○利用者の入院や退居に対しては、生活の継続性の視点から慎重に扱い、本人の意向を伺って、医師・家族・職員が話し合い、利用者本意の対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○運営推進会議では包括支援センター町内会長・民生委員・社協・警察・消防等と連携し支援している。 ○利用者の意向により、年数回地域行事や学校行事等の見学・参加をしている。 ○応急処置法の指導の時、利用者の疑問に消防署員が分かり易く答えてくださり、利用者が納得されていたことがある。 ○ボランティアとの交流があり利用者に喜ばれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○利用者の希望で、敷地内にあるディサービス(マッサージ)を受けている。 ○利用者の希望で、訪問歯科診療・皮膚科の往診・訪問美容サービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○運営推進会議へ出席頂いており、情報交換や会議録の報告をしている。地域の認知症への協働の用意があることを伝えている。 ○権利擁護、成年後見制度が必要と思われる方に対して、関連医療機関のソーシャルワーカーへ相談できる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○入居時や必要時、ご家族と連携し、医療機関を決めている ○基本的には受診や通院はご家族により支援いただく。(緊急時は職員が同行)を重要事項説明書で同意を得ている ○利用者の体調など変化があった場合は早い相談ができ、主治医等との連携によりより適した医療機関への受診ができている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>○利用者の状態を考え、プライドを傷つけないように言葉使いに気を付けています。</p> <p>○職員会議でも、入居者への接遇を皆で話し合っています。</p> <p>○入社時に人権・プライバシー配慮の説明と同意を得ています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>○利用者の力に合わせて、電話取次ぎなどを行っている。</p> <p>○思いや希望は話を聴いて対応している。</p> <p>○利用者について、職員間で情報を共有し対応している。</p> <p>○利用者の訴えを否定せず、繰り返し共感する。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>○利用者が、毎日元気で楽しく過ごしていただくように職員は考えています。</p> <p>○利用者のペースで過されており、見守り支援しています。</p> <p>○利用者のその時の状態や状況に合わせて、活動の声かけや協働の支援をしています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>○個人の希望により、毛染めパーマカットは、出張理美容師の支援を受けたり、職員の美容師らの支援を受け、個人の希望のカットが出来ている。</p> <p>○パジャマへの更衣、朝の更衣など生活のリズムに合わせて身だしなみの声かけ支援を行っている。</p> <p>○トイレの後服装のみだれに注意し、支援をしています。</p>	<p>○ 外出・行事には化粧マニキア等のおしゃれを支援したい。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>○利用者間の相性や個人の好みに配慮した席作りをしている</p> <p>○利用者の個々の食事形態を工夫し残存機能を生かしゆっくり食べていただくように声かけ見守っています。</p> <p>○職員と一緒に楽しみながら食事し、準備片付けも手伝って頂いています。</p>	<p>○ 少人数のグループでの外食や出前などを取り入れたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>○行事・その他誕生日のメニューは、利用者の希望を伺い取り入れています。</p> <p>○手作りおやつや、お漬物、金柑付けなど人気があります。</p> <p>○個人への差し入れは冷蔵庫へ預かり、期限内に提供しています、頂き物や手作りおやつは、分け合っています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○昼間と夜間の状態に合わせて、下着やリハビリパンツを使い分けています。 ○時間的誘導、声かけ、水分補給、腹部マッサージを心がけています。 ○個人の排泄チェック、水分補給、動作表情などから観察し緩下剤の調整をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○個人の希望や順番は、前日に入浴されなかった方を優先毎日入浴できる。 ○排泄の失敗の利用者は、その都度入浴シャワー浴など臨機応変に対応しています。 ○身体介護の必要な方は、スタッフ間の協力を得て安全に入浴支援できている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○生活リズムを維持するよう、昼・夜更衣を支援しています。 ○日中色々な活動を勧め個人の生活習慣や、その日の状態にも対応し安心、安眠できるよう支援しています。 ○温度調整や個人では、冬場に湯たんぽを使用する。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○ご家族の来訪を期待している利用者の代弁を支援します。 ○ご家族と月命日に外出されるので気分転換になっています ○個人の趣味(カラオケ・踊りなど)に合わせて支援している。 ○個人に合わせた学習・計算や個人に応じて家事協働の環境設定を支援し、あとから感謝の言葉を伝えています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○お金を持つことの大切さを職員ご家族は理解している。 ○ご家族の意向も伺い、お金を所持されている。 ○利用者の希望により、買い物へ同伴している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○天気のよい日は、園外散歩や園庭の散歩を同伴しています ○庭の散歩が個人の日課になっています。 ○玄関先の椅子に掛け、くつろいでいます。 ○利用者の希望により季節の花を見に行くなど日常的にドライブに出掛けています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○桜の花見、コスモス見学などの行事をご家族へお知らせし、一緒に出掛ける機会を作っている。 ○個人ご家族の希望により、誕生日前後に行きたい場所を伺い職員と一緒に出掛ける体制がある。 ○外食など利用者の希望による外出支援に結び付けたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○ご家族からの取次ぎ、利用者が家族との絆を確認したい時など日常的に電話の使用を支援している。 (居室でも、電話の子機を使ってお話できます。) ○ご家族の来訪があり、日常の手紙のやり取りはないが、ご家族から利用者への年賀ハガキが届きます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○面会時間の設定はなく、いつでも気軽にご家族の来訪(閉門後もインターホンで対応。)面会ができます。 ○ご家族の電話時間帯の都合も伺い、職員間で周知しており利用者の希望の電話を取次いだり、来訪いただいている。 ○ご家族や来訪者を笑顔で迎え、居心地よく過して頂けるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○日常的に拘束をしないケアを実践している。 利用者の人権、尊厳のある暮らしへの支援に心がけている。 ○職員は、「身体拘束廃止推進」研修会に参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○日中は施錠せず、職員は利用者の所在を確認している。 ○門や玄関の施錠(朝9時夕18時)の時間が決められている。 ○引継ぎやミーティング時には無断外出しやすい方を職員の傍に誘い見守っている。 ○センサーがあり、早めの対応ができる。 ○帰宅要求に対して、話を聞く・声かけして見守る・一緒に出掛けるなど個別に対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○職員会議でヒヤリの報告を行い、利用者の状態把握に努め、所在の確認・声かけ・近位見守り支援している。 ○帰宅願望や落ちつきのない利用者、転倒の恐れのある利用者の変化を日々職員は記録・引継ぎ等で把握しておりチームで対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○薬や洗剤・刃物等保管場所が決まっており、実行している。 ○過去の経験を生かして、入社時に注意の必要な物品の管理や保管場所・入居者の状態について説明体制作りしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○事故をを防ぐための知識を学ぶ機会がある。 ○日常ヒヤリハットのノートを活用しており、職員会議で話し合っ、利用者の変化を把握し事故防止につなげている。 ○職員は、日々引継ぎなどで利用者の状態変化を把握し対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○緊急時の連絡体制(緊急連絡網)がある。 ○吉野分遣隊救急隊から応急処置や緊急時の初期対応を(止血、骨折、心肺蘇生法・AEDなど)定期的に学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○吉野分遣隊へ協力をお願いして避難訓練、通報訓練、初期消火などの訓練を年2回行っている。 ○運営推進会議で地域の方もホームの災害時の心配をしてくださっており、今後地域の消防団との連携を深めたい。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○電話やご家族来訪時に、利用者に起こりうるリスクについて説明し、ご家族の意向を伺い、記録に残し、職員間で共有し安全で威圧感のない暮らしの支援に心がけている。 ○主治医とも連携しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○利用者のその日の行動、顔色などを早く察知し、声かけ視ながら様子を伺いながら支援する。 ○衣服にて体温調整や居室の換気を常に心がけている。 ○毎日の健康観察(バイタル、排泄、食事量等)記録し異常があれば情報を共有し必要に応じて対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診時状態の変化を記録し主治医への報告を行っている。 ○夜勤者が翌日の薬を準備し、排便などのその日の状態によって用量を調整している。 ○薬が処方されたら名前・日付を記載し確認している。 ○薬の処方時、薬情を確認し、全職員が把握できるようにする。 ○個別の薬情表を作成しわかりやすくしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○バランスのよい食事、おやつ、水分補給など心がけている。 ○個々に応じた適度な運動散歩を行っている。 ○食物繊維や乳製品など多く摂取するよう心がけている。 ○個別にトイレ誘導し、腹部マッサージを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○毎食後の口腔ケアは、声かけ誘導し歯磨き、義歯洗浄)を支援している。 ○入眠時は、義歯を洗浄し器に水を入れて保管する。 ○着歯の調子が悪い時は、ご家族への報告し受診・往診にて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○バランスや盛り付けなど気を配っている。 ○一日の水分量(1300cc)摂取できるよう数回に分けて摂取して頂く様努力している。 ○利用者の個人に合わせて、刻み食ミキサー食と配慮しながら食べて頂いている。 ○定期的に体重測定を行い健康維持の目安にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○外出後は必ず、手洗いうがいを行っている。 ○生で食べる野菜などは十分に洗い、加熱する必要がある物は十分に過熱するようにしている。 ○インフルエンザ予防接種を受けている。 ○食器布巾など清潔な状態で使用している。 ○必要時皮膚科の往診を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○食器等は使用後食器乾燥機に乾燥させ使用している ○冷蔵庫内の掃除を行い、食品の期限に気をつけている。 ○適宜食器、まな板、台布巾は漂白剤で消毒している。 ○調理用具は、一度水洗いを行ってから使用している。 ○生鮮食料品は、地域の商店から毎日配達されており、新鮮なものを使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○玄関スロープサイドは手作りの花壇があり、花や木を植えていて入りやすい雰囲気である。 ○手作りであたたかい感じの木製表札をかけている。 ○玄関口に椅子を設置してあり、利用者は気軽に腰を下ろしくつろいでいる。 ○花壇や菜園があり、家庭的で親しみ易くなっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○ホームは中土間を中心に食堂、和室、居室が配置され、適度な光と風が入り居心地がよい。 ○玄関や共用スペースには季節感のある花を飾ってある。 ○トイレや水周りは汚れ易い事を理解し、清潔に心がけている ○季節行事に合せ、ひな壇飾りや七夕・十五夜飾りをしている ○カラオケ・輪投げ・旗・ボールの玩具やレクに工夫を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○和室にはテーブルやソファー、廊下には木製椅子、食堂の椅子やテーブルはいつでも自由に使え、利用者が思い思いに過せるスペース作りや環境作りを心がけている。 ○輪投げや踏み台お手玉、カラオケなど自由に使用できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○馴染みのある家具や家族の写真を置いたり誕生日記念の色紙を飾って本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 ○居室が分からない時は、飾りや張り紙などの目印を付けたリ、声かけ見守りをして自立を支援している。 ○時計を壁に掛けたり、置時計をおいてある。 ○日中布団を干したり、たたんで置くようにし手いる。 ○居室にごみが放置されないよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○職員や利用者は、寒暖計を見ながら換気や室温調整をこまめに行っている。〔22～24℃〕(ファンヒーター18℃設定) ○トイレはこまめにのぞき、汚したり流し忘れに対応している。 ○使用済みオムツを新聞紙で包み処理している。 ○調理の臭いがこもらないよう、換気扇の使用や窓の開放など換気に心がけている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○水周りは滑りにくい床材使用、風呂場やトイレ廊下には手すりがついており、自立を助けている。 ○利用者が車椅子でもトイレの出入りができるように、カーテンを設置し、プライバシー保護に配慮している。 ○自分の物が分かるように、靴箱に個人の名前を貼っている ○手作り踏み台を使用し、下肢機能維持を図っている。 ○洗濯干しが室内で出来るよう、スタンド式物干しを使用した		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○室内やトイレに飾りや貼り紙をして、利用者が分かり易い目印をしている。 ○声かけして、洗濯干し洗濯たたみ配膳準備などを職員と一緒にやっている。 ○居室には名札がついている。 ○夜間、トイレの照明により場所の確認ができる。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○玄関先に椅子に利用者が腰を下ろし、くつろいでいる。 ○日常の庭散歩の際、家庭菜園や花壇の花を眺めている。 ○天気の良い日は、日光浴を兼ね、園庭での活動も行う。 ○菜園の収穫時は利用者と一緒にいき、食卓にあがる ○居室から庭が見え開放的であるがベランダへの出入りは段差がある為危険である。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 職員は、利用者と一緒に楽しく過すよう努めている。
- ご利用者が食事をしっかり食べていただけるよう工夫している。
- 体調管理・排便コントロール等こまめに情報を共有して、個別支援に努めている。
- 室内に中庭があり、日当たりがよく気持ちよく過せる。
- 広い庭があり、自然に散歩や屋外レクを行っている。